

# 戰時國民幼稚園

性 設 建 (九)

## 倉 橋 惣 三

本土の歴史的大建設はいふまでもないとして、朝鮮半島に、臺灣島に、樺太島に、關東州に、而して滿洲に、日本人の大建設性は由來立證せられ來つてゐる。しかも、我等が今や新たに手につばきして立ち向つてゐる大々建設に對して、更に大々建設性の緊要を忘れることは出来ない。既に帝國の領土となつてゐる地域だけでも本土の數倍を越えてゐる。その他世話を見てやらなければならぬ廣さに至つては、南に北に、蓋し日に日に測り定め難いものがある。之れ皆、日本人の建設力に依つてゐるものである。殊にその風土は、舊來の國民性が育てられ來たつた風土に大に質を異にしてゐる。その建設力に一段の強を増し、發展を加へなければならぬのである。たゞへば、寒さに耐ゆるさいつても、暑さを厭はぬさいつても、その寒暑共に日本人本來の寒暑を度にして超え、遂に質を異にしてゐる。これに耐ゆるばかりでない。打ち勝つばかりでもない。その中で著々たる建設が一つづつ得なければならぬのである。しかも、寒暑の如きは、最も明瞭簡單なる一例に過ぎぬ。ひき口に大東亞共榮圈さひ、北亞同族さいつても、異種の民族、別個の慣習の間にあつての建設である。業の必ずしも容易でないことを知らねばならぬ。それもとゞに、異を厭はず別に耐ゆるばかりでなく、異を親しみ、別を化してのみ成り得る建設である。その建設性も亦たゞに度を強張せられるばかりでなく、質を擴大せられなければならぬのである。この建設性の強張を擴大は、今日に於て必須であると共に、明日於て一層の必要である。戦争も長期を期してゐる。況んや建設に於ておやである。戦争は或は今日のわれ等によつて引受けるだけで足り、それで充分勝ち抜き得るであらう。建設に至つては、此の大々建設に至つては、恐らくや、われ等は、その基礎を固め、設計を立て、何等か緊急工事を仕上げるに止まるのかも知れない。即ち、われ等だけで建設を完うして、これを次代に譲與するのではない。益々擴がり愈々大きくなるであらう建設の仕上げを、更にその仕上げを、今日の幼きものに肩つぎして貰はなければならぬのである。われ等、今日何んの重きを擔ふこともなく、輕快に嬉戲し、和唱してゐる幼きもの達を見て、その成長の後引受けて貰はなければならぬ大々建設の光輝ある重責を想見せざるならぬのである。と同時に、その光榮を希望に充つる重責を、堂々として、而して悠々として遂行完成し得る建設性そのものを、幼時から假りにも養ひ足りないうことがあつてはならぬ。心から痛感せずにはゐられないのである。教育者は平時にあつても建設を建設してゆくものである。今日、國民の建設性の建設者として、われ等に負擔せられてゐる責務の重大さは、蓋し測り知り難いものがある。工夫しても工夫しても、尙ほ足りないであらう。